

市職員のみなさん

「しんぶん赤旗」日刊紙を 読んでみませんか?

「『赤旗』は事実を書いたうえで怒りがあって、さらにこうしなくちゃいけないということまで書いてあります。他のメディアは事実しか書かなくて物足りない」—作家の雨宮処凛さんは赤旗の魅力をこう語ってます。住民の目線で報道し、一般紙とは違う魅力があるのが「しんぶん赤旗」です。



九電“やらせメール” スクープ



九電が“やらせ”メール

関係会社

九電が電力大手の電力会社（関西電力、東海電力、中部電力）と関係会社（電力サービス、電力ネット）を通じて、インターネット上で「やらせメール」を送りつけたことが、関係会社関係者から明らかになった。関係会社関係者は、電力サービスが、電力ネットを通じて、電力サービスに「やらせメール」を送りつけたことが、関係会社関係者から明らかになった。関係会社関係者は、電力サービスが、電力ネットを通じて、電力サービスに「やらせメール」を送りつけたことが、関係会社関係者から明らかになった。

「赤旗」は九電の“やらせメール”の証言と内部資料を入手し、一般紙に先がけて7月2日に1面トップで報道。日本共産党の笠井議員が国会で追及し、6日に九電社長は“やらせ”を認め謝罪しました。大企業からの広告収入に頼ることなく、堂々と国民の立場でモノが言える新聞だからこそスクープ記事が出せます。

救援・復興 被災者目線で



被災者は何を望んでいるのか—現場のナマの声を届け、その願いをうきぼりにし、「復興は被災者が主役」という立場で報道しています。

被災地での奮闘を報道 公務員攻撃に抗する論陣

「2カ月で1年分の業務」など被災地での公務員の奮闘ぶりを報道。国家公務員の賃金削減にも、一般紙が同調する中で、民間や地方公務員にも波及し経済をさらに悪化させるものとして反対の論陣を張っています。

お申込み・
問い合わせは
気軽にご連絡を

電話:052-261-3461 メール:mail@jcp-aichi.jp

「しんぶん赤旗」は月2900円で毎日お届けしています。職場でも自宅でもお届けします。日曜日にお届けする「しんぶん赤旗日曜版」だけでも購読できます(月800円)